

ヨーロッパにおける Passive Smoking の実態

——スイス青少年を対象にして——

村 松 園 江

Students' Reactions to Passive Smoking in Europe

Sonoe Muramatsu

I はじめに

喫煙の害は最近まで喫煙者自身の問題として取り扱われてきたが、今日では非喫煙者に対してもその害が及ぶことが明らかになってきた。^{1) 2)}この非喫煙者の喫煙は **Involuntary Smoking** あるいは **Passive Smoking** と呼ばれ、日本では間接喫煙あるいは受動喫煙と呼ばれている。

Passive Smoking に関する研究はアメリカでは、**Speer, Cameron,**¹⁾ カナダでは **Shephard,**^{2) 3)} 日本では村松らの報告があるが、^{5) 6)}ヨーロッパにおいては未だ余り例を見ない。そこで、今回スイスのチューリヒ州立学校の生徒、大学生を対象にして **Passive Smoking** に対する反応と症状についての調査研究を行なったのでその成果を報告する。

II 調査方法

調査対象は表1に示すようにチューリヒ市内の州立学校1年生183名（日本の中学1年生に相当する。以下中学生とする。）、4年生203名（日本の高校1年生に相当する。以下高校生とする。）、及びスイス連邦工科大学の学生367名の合計753名である。調査は1981年の11月～12月に無記名質問紙法により行ない、回収を徹底させるため、各授業の開始時、あるいは終了時に質問紙を配布し、その場で記入させ、直ちに回収した。質問紙は村松らの調査表を基にスイ

Table 1. Age and Number of Subjects.

	Age (\bar{X})	Number (Male, Female)
Junior Highschool Students	12-15 (13)	183 (106, 77)
Senior Highschool Students	15-19 (16)	203 (119, 84)
University Students	18-39 (23)	367 (249, 118)
Total		753 (474, 279)

スの実状に合うように削除追加を施して作成し、中学生に対する質問紙には更にわかりやすい言葉を用い、回答しやすいよう配慮した。質問の内容は **Passive Smoking** に対する反応、それによる影響、両親の喫煙習慣、両親の喫煙習慣についての意見、本人の喫煙習慣などを中心とした。

Ⅲ 結果ならびに考察

1) 喫煙習慣

喫煙者率は表 2 に示すように、高校生では10.3%を示し、この値は Harreis⁷⁾ らが11才～14才の子供を対象にして行なった調査の23%より低く、大学生では20.2%であり、Schüler⁸⁾ らの調査(20～34才)の男子51.8%、女子35.8%と比較すると低い割合であった。

Table 2. Smoking Habits.

	Senior Highschool Students			University Students		
	Men	Women	Total	Men	Women	Total
	N(%)	N(%)	N(%)	N(%)	N(%)	N(%)
Smokers*	13(10.9)	8(9.5)	21(10.3)	47(18.9)	27(22.9)	74(20.2)
Nonsmokers	106(89.1)	76(90.5)	182(89.7)	202(81.1)	91(77.1)	293(79.8)
Total	119(100.0)	84(100.0)	203(100.0)	249(100.0)	118(100.0)	367(100.0)

*: Regular Smokers + Occasional Smokers

Harreis⁷⁾、Reinert⁹⁾ らは喫煙者率は社会階級が低いほど、また、学業レベルが低いほど高くなると報告しているが、今回の対象は比較的学業レベルが高い集団であるのでこのような低い喫煙者率が表われたと思われる。

男女別の喫煙者率の比較をしてみると高校生では男子10.9%、女子9.5%、大学生では男子18.9%、女子22.9%と、いずれの年齢においても統計的に男女間に有意な差は認められなかった。男女間に喫煙習慣の差がないことについては、イギリスの Rawbone¹⁰⁾ は男女同等という教育的、あるいは社会的な風潮の反映だろうと述べており、スイスにおいても同様のことが考えられる。

2) 喫煙開始年齢

大学生の喫煙者の多くは16～18才にタバコを吸いはじめており、高校生の喫煙者の大部分は14～16才に喫煙を始めている。高校生の大部分が16才であり、大学生とは年齢構成が異なるので、一概に高校生の喫煙開始年齢が早いとは、これらの結果からは言うことができない。

3) 両親の喫煙習慣

両親の喫煙習慣は表 3 に示すように、父親の33%、母親の17%が喫煙者である。両親の喫煙

Table 3. Parental Smoking Habits.

	Fathers		Mothers	
	N	(%)	N	(%)
Smokers*	241	(32.8)	127	(17.0)
Nonsmokers	494	(67.2)	622	(83.0)
Total	753	(100.0)	749	(100.0)

*: Regular Smokers + Occasional Smokers

習慣と、子供の喫煙習慣とは強い関係があることは以前からも報告されているが、^{11) 12)} 今回の調査からも両親のどちらか一方でも、タバコをすっている家庭の子供に喫煙者が多いことが認められ ($p < 0.01$), 特に父親の喫煙との間により強い関係が認められた ($p < 0.05$)。

4) Passive Smoking に対する反応

Passive Smoking に対する反応は図1に示すように、中学生、高校生、それに大学生のいずれにおいても「感じ悪い」が最も多く、それぞれ80.9% (男子78.3%, 女子84.4%), 69.5% (男子72.3%, 女子65.5%), 及び70.3% (男子70.3%, 女子70.3%) であり、「感じ良い」はわずかであり、反応には性差は認められなかった。また年齢別には中学生に「感じ悪く」思っている者の割合が大きく ($p < 0.05$), 喫煙習慣別では喫煙者に「無関心」と答える者が多かった ($p < 0.01$)。

両親の喫煙習慣別に比較してみると、「感じ悪い」と答えているのは非喫煙者の家庭の子供に多く、「無関心」と答えているのは喫煙者の子供に多かった ($p < 0.01$)。これらのことから、青少年は毎日の家庭内での父母の喫煙や、社会生活の中でのタバコ煙に次第に慣らされている

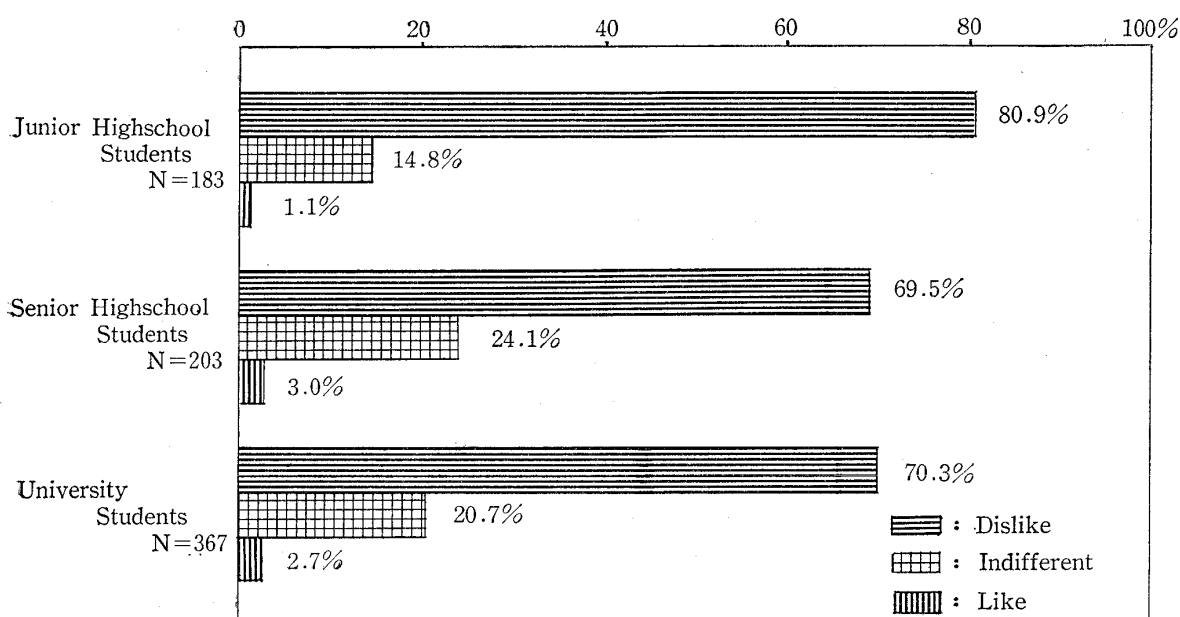


Figure 1. Reactions to Passive Smoking.

ことが想像できる。

5) Passive Smoking による影響

図2は Passive Smoking による影響を表わしたものであり、中学生と大学生の80%以上、高校生の60%以上が1つ以上の症状を訴えている。症状の中では眼への刺激が最も多く、半数近くが訴えており、咳、及び鼻への刺激がこれに続いており、症状の訴えに性差は見られなかった。Cameron³⁾ の同様の調査では訴えの頻度は年齢が長ずると次第に減少すると報告されているが、本調査においては大学生も多くの症状を訴えていた。Grandjean¹³⁾ らは Passive Smoking の主たる問題は、いわゆるタバコ病（肺ガン、心臓血管疾患等）とは異なり、においや、眼や呼吸器官への Irritation などであり、小さい子供や病人は特に不快な影響を受けることが大であると報告している。今回の調査では子供と同様に大人も眼の刺激、咳などの Irritation を多く訴えていることが明らかとなった。

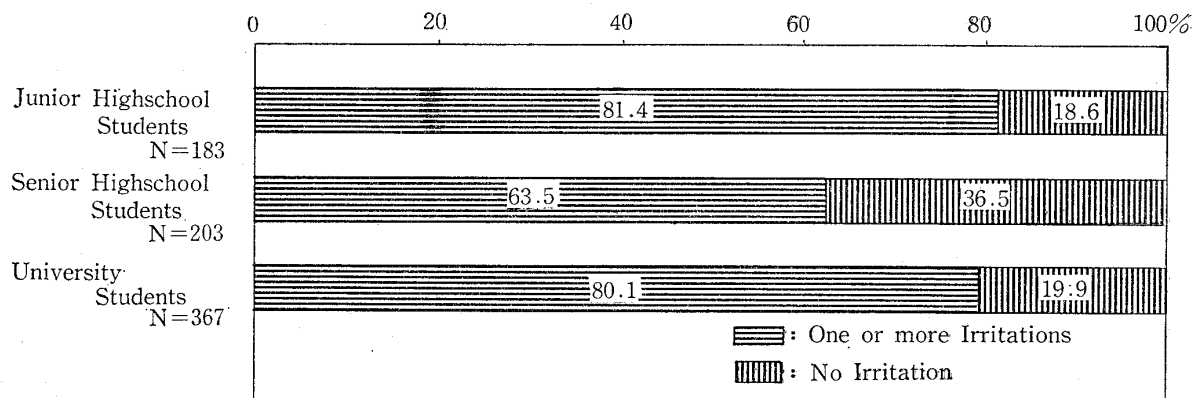


Figure 2. Irritations due to Passive Smoking.

6) 両親の喫煙に対する態度

父親、または母親が喫煙習慣を持つ中学生では、父親が喫煙している子供の85%、母親が喫煙している子供の90%が、父親あるいは母親が喫煙をやめたら、もっと好きになると答えている。また、喫煙する親を持つ子供の約半数が親の健康を心配している。これらの回答から、毎日の親の喫煙はその場にいる子供に不快感を与え、長期にわたって子供の健康を害するばかりでなく、親子の関係においても何らかの心理的な問題となっていることが予想される。喫煙者は、喫煙を自分自身の問題としてだけでなく、彼らの子供との間の問題としても考えるべきであり、子供たちが親の健康を心配していることを知るべきであろう。

IV 要 約

スイス、チューリヒ市内州立学校生徒1年生（平均年齢13才）183名、4年生（平均年齢16才）203名、及び大学生（平均年齢23才）367名を対象にして Passive Smoking に対する態

度ならびに症状についての調査を行ない、以下に示すような成績を得た。

- 1) 州立学校4年生の喫煙者率は10.3% (男子10.9%, 女子9.5%) であり, 大学生は20.2% (男子18.9%, 女子22.9%) であった。
- 2) 大学生の喫煙者の約半数は16~18才でタバコをすいはじめており, 州立学校4年生の喫煙者の大多数は14~16才で喫煙を始めている。
- 3) スイス青少年の父親の33%, 母親の17%が喫煙者であった。
- 4) スイス青少年の約70%は **Passive Smoking** に対して「感じ悪い」と回答しており, 「感じ良い」はわずかであった。
- 5) 非喫煙者は喫煙者より **Passive Smoking** に対しては否定的であったが, 性別による差は見られなかった。また, 両親が非喫煙者である者は両親が喫煙者である者より「感じ悪い」と回答する割合が多かった。
- 6) **Passive Smoking** によって約80%の者が1つ以上の症状を訴えており, 症状の中では眼の刺激が最も多く, 咳, 鼻の刺激がこれに続いている。また, 非喫煙者は喫煙者より症状の訴えは多いが, 性別では有意な差は認められなかった。

稿を終えるに臨み, 御指導, 御校閲をいただいた名古屋大学教授伊藤章博士に深謝いたします。また, 本研究はスイス連邦工科大学, 衛生, 労働生理学研究所で行なわれたものであり, 御指導, 御協力いただいた同研究所の **Dr. Annetta Weber**, ならびに愛知教育大学村松常司助教授に感謝の意を表します。

文 献

- 1) Speer, F. et al.: Tobacco and Nonsmoker, A Study of Subjective Symptoms. Arch. Environ. Health, 16, 443-446, 1968.
- 2) Cameron, P. et al.: The Health of Smokers' and Nonsmokers' Children. Journal of Allergy, 43(6), 336-341, 1969.
- 3) Cameron, P.: Second-Hand Tobacco Smoke: Children's Reactions. J. School Health, 62(5), 280-284, 1972.
- 4) Shephard, R.J. et al.: Effects of Cigarette Smoke on the Eyes and Airways. Int. Arch. Occup. Environ. Health. 43(2), 135-144, 1979.
- 5) 村松常司他: 喫煙の経験, 習慣に影響を及ぼす諸要因の研究, 第3報, 両親の喫煙と中・高校生の Second-Hand Tobacco Smoke について。学校保健研究, 19(2), 88-95, 1977.
- 6) 村松園江他: 喫煙の経験, 習慣に影響を及ぼす諸要因の研究, 第5報, 大学生の喫煙と Second-Hand Tobacco Smoke について, 学校保健研究, 20(8), 391-397, 1978.
- 7) Harreis, G. et al.: Das Rauchen von Schülern verlagert sich auf immer jüngere Jahrgänge. Off. Gesundh.-Wesen, 42(10), 771-778, 1980.
- 8) Schüler, G. et al.: Rauchgewohnheiten in zwei Züricher Land-gemeinden. Schweiz. Rundschau Med. (PRAXIS), 69(45), 1661-1670, November 11, 1980.

- 9) Reinert, M.: Rauchgewohnheiten von 8-16 jährigen Schülern. Prax. Pneumol. 34(10), 620-627, 1980.
- 10) Rawbone, R.G. et al.: Cigarette Smoking among Secondary Schoolchildren in 1975. J. Epidemiology and community Health, 32, 53-58, 1978.
- 11) Horn, D. et al.: Cigarette Smoking among High School Students. Amer. J. Pub. Health, 49(11), 1497-1511, 1959.
- 12) Salber, E.J. et al.: Cigarette Smoking among High School Students Related to Social Class and Parental Smoking Habits. Amer. J. Pub. Health, 51(12), 1780-1789, 1961.
- 13) Grandjean, E. et al.: Passivrauchen. Bull. Schweiz. Akad. Med. Wiss., 35, 99-109, 1979.